

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理学実験 2	HSP22-011	選択	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
前川 真奈美	B304	manami.maekawa		木曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p><目的>心理学における様々な実験手法を理解したうえで、目的や仮説に沿って適切に実験を立案・実施し、その成果をわかりやすくまとめ上げる力を身につけることを目的とする。また、収集したデータを統計的に解析する手法も習得する。</p> <p><概要>受講生自身に実験者および実験参加者となってもらい、心理学における基本的な実験を3つ実施する。心理統計分析用のソフトウェア HAD の使用方法など、実践的な技術についても解説する。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> その他 (実験)				
学習上の助言	講義中やオフィスアワーを活用し、積極的に質問して理解を深めてほしい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	なるほど!心理学実験法(心理学ベーシック第2巻)/監:三浦麻子/著:佐藤暢哉、小川洋和/北大路書房/2017年				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理学研究における実験・調査の重要性を理解し、具体的に説明できる。			HC (5)	
②	心理学研究における様々な実験手法を理解し、適切に実施できる。			HC (5)	
③	収集したデータについて適切な統計解析を行うことができる。			HC (5)	
④	研究レポートを執筆規定に従って作成することができる。			HC (5) (6)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 実験の練習 1 (ストループ効果) :ストループ効果について学ぶ。	講義			0.5
2	実験の練習 2 (ストループ効果) :実験の仮説、手続きについて学ぶ。実験を実施し、データを収集する。	講義・実験	配付資料を熟読し、ストループ効果の実験について整理する。レポート作成に必要な情報を集める。	1	
3	実験の練習 3 (ストループ効果) :データの整理、図表の作成、統計解析 (t 検定) について学ぶ。	講義・演習		0.5	
4	実験の練習 4 (ストループ効果) :結果の解釈を行う。実験の問題点とその改善策を検討する。	講義・GW		1	
5	実験の練習 5 (ストループ効果) :レポートの書き方について学ぶ。	講義・演習		1	
6	ミューラーリヤー錯視 1:実験の仮説、手続きについて学ぶ。実験を実施し、データを収集する。	講義・実験	配付資料を熟読し、ミューラーリヤー錯視の実験について整理する。レポート作成に必要な情報を集める。レポートを作成し、期限内に提出する。	1	
7	ミューラーリヤー錯視 2:データの整理、図表の作成、統計解析 (1要因分散分析) について学ぶ。	講義・演習		0.5	
8	ミューラーリヤー錯視 3:結果の解釈を行う。実験の問題点とその改善策を検討する。	講義・GW		1	
9	ミューラーリヤー錯視 4:レポートの書き方について学ぶ。	講義・演習		1.5	
10	ミューラーリヤー錯視 5:レポートの総評ならびにピアレビューを通して、自分のレポートの不足部分や改善点を考察する。	講義・GW		1.5	
11	SD 法 1:実験の仮説、手続きについて学ぶ。実験を実施し、データを収集する。	講義・実験	配付資料を熟読し、SD 法による調査研究について整理する。レポート作成に必要な情報を集める。レポートを作成し、期限内に提出する。	1	
12	SD 法 2:データの整理、図表の作成、統計解析 (2要因分散分析) について学ぶ。	講義・演習		0.5	
13	SD 法 3:結果の解釈を行う。実験の問題点とその改善策を検討する。	講義・GW		1	
14	SD 法 4:レポートの書き方について学ぶ。	講義・演習		1.5	
15	SD 法 5:レポートの総評ならびにピアレビューを通して、自分のレポートの不足部分や改善点を考察する。	講義・GW		1.5	
試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照。				

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	80	0	0	20	
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	25	0	0	5	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	25	0	0	0	25
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	0	20	0	0	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	「ストループ効果」で1つ、「ミュラーリヤー錯視」と「SD法」で各2つ（初稿、修正後の最終稿）、計5つのレポートの提出を求める。 体裁、内容、表現力等により評価する。第5回に、評価基準を明記したルーブリックを配布する。（各16点満点で計80点満点）				提出されたレポートを添削し、コメントと評価点を付して返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	授業への取組み（実験者および実験参加者としてふさわしい態度、グループワークでの積極的な意見交換など）を総合的に評価する。				講義中に総評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	公認心理師資格を有し、2年の心理査定業務の経験がある。						
実践的授業の内容	専門性とこれまでの研究活動をもとに、受講生がイメージしやすい心理学研究の具体例や実践例を交えながら授業を進める。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 公認心理師の国家資格取得希望者は必ず履修すること。 ◇ 専門科目領域の「心理学実験 1」ならびに「心理学統計法」を履修済みであること（あるいはそれらと同等の知識が定着していること）が望ましい。 ◇ 第1回のオリエンテーションにて講義の進め方に関する重要なアナウンスを行う。履修予定者は必ず出席すること。公欠等やむを得ない理由で出席できない場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。 ◇ 「3つの実験を全て経験すること（無断欠席・遅刻は厳禁）」と「課されたレポートを全て提出すること」が単位取得の前提条件である。また、レポート作成にあたり生成AIの出力結果を利用することを禁止する。これに反した場合は未提出と同等の扱いとする。 ◇ 大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。 ◇ 今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によってシラバスの変更が行われることもあり得る。 						